

心豊かでたくましい児童生徒を育て  
小中一貫教育をめざして

## シリーズ えでゆれば

Vol. 12

### 施設分離型（連携型）の 小中一貫教育について

小中一貫教育に関する保護者アンケートでは、施設一体型で

現在建設中の三戸小学校・三戸中学校と、施設分離型（連携型）の斗川小学校との関係について多くの意見や質問がありました。そこで今回は施設分離型（連携型）の一貫教育についてお知らせいたします。

#### 一貫校の体制について

全国で行われている小中一貫教育には大きく分けて3つのタイプがあります。

1つ目は、同じ敷地・校舎内で小学校1年生から中学校3年生までが一緒に過ごす「施設一体型」、2つ目は隣接した校舎を活用して、小中の教員が相互に乗り入れを行ったり、学校施設

の相互利用を行ったりする「施設隣接型」、3つ目として、離れた小中学校で一貫した指導体制の確立や合同行事の開催などを行う「施設分離型」です。

小中一貫教育全国連絡協議会が平成22年度に実施した「小中一貫教育全国実施状況調査」によると、小中一貫や連携教育を行っている（実施を検討している）590の市区町村のうち、施設一体型の小中一貫校を設置（設置予定）しているのは2割程でした。つまり多くの市区町村では施設分離型の一貫・連携教育を行っているのです。

#### メリットの違い

施設一体型や施設分離型は、表1のとおり、それぞれメリットが違います。

また、全国には小ささまざまな規模の学校があり、表2のと

おり学校の規模によって学習・生活・学校運営等の面でメリットが異なります。  
メリットは裏を返せばお互いのデメリットとなることもあるため、デメリットを最小限にしながらかメリットを最大限に生かす工夫が必要となります。

施設一体型のメリット	施設分離型のメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の打ち合わせがしやすい。</li> <li>・児童生徒の移動にさほど問題がない。</li> <li>・小中による異年齢交流を行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習や伝統芸能継承など地域の特色ある独自の教育活動が展開しやすい。</li> <li>・体育館や校庭などの施設の割り振りがしやすい。</li> </ul>

表1 体制によるメリットの違い

小規模校のメリット	大規模校のメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の一人一人に目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> <li>・学校行事や部活動などにおいて、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。</li> <li>・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>・異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li> <li>・全教職員の意思の疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で、互いに認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力をさらに伸ばしやすい。</li> <li>・学校行事や音楽活動などの集団教育活動に活気が生じやすく、部活動などの選択の幅も広がりやすい。</li> <li>・児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。</li> <li>・クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。</li> </ul>

表2 学校規模によるメリットの違い

## 保護者アンケートの 斗川小学校に関する記述

### ◆中1ギャップに関する意見

「斗川小学校が施設分離型（連携型）として存続するのであれば、7年生から新しい学校に編入するようなものではないか。小中一貫教育の大きなねらいが中1ギャップの解消なのであれば、小学校段階から何らかの交流を多く持つことが必要ではないか。」

施設分離型（連携型）がデメリットとならないよう、より良い交流のあり方を模索していくのが重要課題であると認識しています。

これまでも芸術鑑賞会や三沢基地での体験学習など、小学校間の交流を行ってきました。

今後は学校やPTAの行事などを含む学校教育だけでなく、社会教育でも、より良い交流が図れるよう工夫したいと思います。

### ◆小学校の統合に関する意見

「大きな集団で授業を受けることや団体生活を送ることが大切だと考えるが、三戸小学校と統合することはできないか。」

平成9年度の斗川小学校開校から十数年で、町内小学校の統合が進みました。これらの背景には「校舎の老朽化や耐震性の問題」と「児童生徒数の減少」という2つの大きな理由がありました。

小中一貫教育学校の構想段階では、斗川小学校の児童数は50〜60人で推移すると見られたことから、当面の間は施設分離型（連携型）の一貫教育を行うこととしたものです。

今後、極端な児童数の減少など、小規模校のメリットよりもデメリットの方が大きくなるようなことがあれば、保護者の皆さまや地域の方々のご意見を伺いながら、学校のあり方についての検討が必要となることも考えられます。

## 小中一貫校建設工事の進行状況

小中一貫校建設工事の進行状況をお知らせします。

現在、外装工事がおおむね完了し、内装工事を実施しており、3月末の完成を目指し順調に工事が進んでいます。



東側からの外観



内部の様子



北側からの外観